# JICA

山梨から世界へ





# 現地の人々と一緒に生活をしながら 互いに学び合い、ともにその国や地域の課題に取り組む

## ボランティア事業



■■ グアテマラ 根岸晃芸さん (甲府市出身) 派遣期間: 2019年4月-2020年3月 職 種: 水質検査 配属 先: バジェ大学ソロラ校

#### 未知の世界にふれる魅力

大学で協力隊経験者の話を聞いて世界の広さを実感し、仕事をしながら海外で生活ができるJICA海外協力隊に応募しました。行く前は技術を教えると思っていましたが、現地の研究員たちは既に豊富な知識を持っており、一緒に調査をして新しい論文作成を目指すことが主な活動となりました。

## どんな環境でもやれる自信に

現地の人との時間の感覚や 仕事の進め方が異なり予定通 り進まないこともありました が、対応力と心の余裕がつき ました。興味があるのに怖い とか現状を気にして挑戦をた めらっているなら、2年はあっ という間なので、挑戦してみ ることをお勧めします。



実験室でのサンプル分析



日本文化の紹介活動







食品加工の授業・漬物づくり



牧室でのひとコマ



志村さんの活動を もっと詳しく



★ ベトナム社会主義共和国 志村啓子さん(都留市出身) 派遣期間: 2021年10月~2023年3月 職 種: 障害児・者支援 配属先: ダナン市インクルーシブ 教育支援開発センター

## 学校に行けない 子どもの存在を知る

インドネシア旅行で「障害を持つ子どもが学校に行っていない」と知り、自分にできる事を探して、JICA海外協力隊に挑戦しました。ベトナム人は人との距離が近く、「人を頼り、迷惑を掛けてもよい」という文化で、その輪に外国人の私も入れてくれました。

### 外国人として過ごした経験

異文化に触れ、多くの人に助けられ外国人として過ごした経験が、帰国後役立っています。考えに幅ができ、日本の学校に戻り、より生徒の気来るようになりました。挑戦に「早い」「遅い」はなく、「やりたい」「出来る時」に挑戦する事が良いと思います。

JICA では、開発途上国からの要請に基づき、現地の人々とその国や地域の課題解決に取り組むボランティ アとして JICA 海外協力隊を派遣しています。

山梨県からこれまでに 355 人が 74 か国に派遣されました (2024 年 4 月現在)。

山梨県出身で現在派遣中の隊員と経験者から、参加に至った経緯や、活動中または帰国後の「今思うこと」 についてお話を聞きました。



田中結さん (昭和町出身) 派遣期間: 2023 年 1 月~ 2025 年 1 月 職 種:コンピュータ技術 配属 先:ブリンセスチュラボーンサイエンス ハイスクールトラン校

#### 自分の役割に悩んだ日々

いつか海外で働きたいと思い ながら会社員をしていました が、挑戦できるときにと JICA 海外協力隊に応募しました。 現地では教員に技術や知識 を教える予定でしたが、先生 たちが優秀で自分の役割に戸 惑いました。今は、授業につ いていけない生徒のサポート を中心に活動しています。

#### 生徒へのサポートが実った

生徒が授業後にプログラミン グの質問をしてくれたことが 嬉しく、自分の活動に自信が 持てました。英語での授業を 想定していたら実際はタイ語 が必要で、現地の状況に柔軟 に対応する必要性を感じまし た。得られる経験に期待して、 JICA 海外協力隊への参加を 選択肢に入れてほしいです。



プンキャンパス



教員研修会の後の宴会でのひとコマ

田中さんの活動を もっと詳しく







児童との集合写真



清水さんの活動を もっと詳しく



ヨルダン 清水貴央さん (北杜市出身) 派遣期間: 2023 年 4 月~ 2025 年 4 月 配属先:パレスチナ難民局

## 子どもたちに直接的な支援を

旅行で訪れたセブ島でのスト リートチルドレンとの出会いが きっかけで子どもたちに直接的 な支援をしたいと感じ、JICA 海 外協力隊への参加を決めまし た。ヨルダン行きは不安もあり ましたし、初めは現地の文化や 言葉に戸惑いました。でも今は 現地の人々との交流を楽しめる ようになりました。

## 子どもたちが

## 楽しめる場をつくりたい

体育の授業が子どもたちの楽し みの場になっていることに喜び を感じています。 JICA 海外協力 隊への応募を迷っていたら是非 とも挑戦してほしいです。活動 はトライアンドエラーですが、失 敗を恐れず新しい挑戦を続け、 多くの経験を得ています。

# 日本の企業が経験や技術を活かして 現地の課題解決をサポートする

## 民間連携事業

JICA は政府開発援助 (ODA) の実施で得た強みを最大限に活かし、企業の海外展開を支援しています。 山梨県ではこれまでに 13 件の企業の皆様からの提案を採択しています (2024 年 5 月現在)。

提案法人	案件名(採択年度)	対象国
株式会社サラダボウル	・ダラット高原における先進的施設園芸事業調査(2014年度)	ベトナム
	・先進的な施設園芸・農業人材育成モデル普及・実証事業 (2015年度)	
株式会社桑郷	・パンパンガ州における桑の葉茶事業案件化調査(2015年度)	フィリピン
	・パンパンガ州における桑の葉茶事業普及・実証事業(2017年度)	
株式会社内藤ハウス	・プレハブ・システム建築を活用した医療施設整備に向けた基礎調査(2016年度)	コートジボワール
甲斐水晶工芸株式会社	・半貴石加工技術による小規模事業者の収益向上案件化調査(2016年度)	ザンビア
株式会社日建	・未電化農山村における蓄電式マイクロ水力・太陽光ハイブリッド発電システム導入案件化	マラウイ
	調査 (2016年度)	
鈴健興業株式会社	・建設廃棄物の安全で効率的な分別・選別処理システムによる埋め立て処分量削減のため	ベトナム
	の案件化調査 (2018年度)	
	・建設廃棄物処分量削減と再製品化に向けた重機選別リサイクルシステム普及・実証・ビジ	
	ネス化事業(2019年度)	
ジット株式会社	・プリンタインクカートリッジ再利用モデル構築事業に関する案件化調査(2021年度)	インド
	・プリンターインク及び小型家電の再利用によるプラスチック削減・循環型経済構築に関する	
	ビジネス化実証事業 (2023年度)	
株式会社ミヨシ	・土壌環境に配慮した高付加価値花卉とイチゴの選抜・栽培技術の普及・実証・ビジネス化	マレーシア
	事業 (2021年度)	' ' ' ' '
株式会社シャトレーゼ	・スラウェシ島におけるカカオ豆の品質向上と高付加価値製品化に係るビジネス化実証事業	   インドネシア
	(2023年度)	' ' ' ' '

# JICA横浜との連携を通じて県内企業の海外展開を支援

## JICA との業務提携・協力に関する覚書の締結

JICA との連携協定を通じて、山梨県内の企業の海外展開を支援している企業の方のお話を聞きました。

■山梨中央銀行コンサルティング営業部 グローバルビジネスサポート室 (甲府市)

「山梨から豊かな未来をきりひ らく」をパーパスとして掲げ、 海外へ新たに進出、海外での 事業展開をされているお客さ まの支援にも注力しておりま す。お客さま支援の強化を目 指し、JICA 横浜とは 2017 年 に覚書を締結しており、以降、 連携しての支援体制を構築して まいりました。2023年も「中 小企業・SDG s ビジネス支援 事業ビジネス化実証事業」向 けに、お客さまの申請を支援 し採択されています。申請支 援を通じ、JICA、お客さまそ れぞれの事業に対する理解が 深まりました。

今後も JICA と連携し、お客さ まの海外展開支援を強化して まいります。





での連携支援風景

山梨中央銀行の活動を もっと詳しく



# 日本の団体が経験や技術を活かして 現地の課題解決をサポートする

## 草の根技術協力事業

日本の NGO、大学、地方自治体、公益法人等がこれまでに培ってきた経験や技術を活かして企画した途 上国への協力活動を、JICA が支援し共同で実施する事業です。JICA はこれまで山梨県 6 団体の皆さまから の事業に協力しています。事業実施団体の方にお話しを聞きました(2024年1月現在)。



★ ベトナム社会主義共和国 山梨県立大学(甲府市) 実施期間: 2021年5月~2023年10月 カウンターパート:ベトナム中央青年団国際協力局 プロジェクトマネージャー安藤 勝洋さん

#### 農村の若者減少の解決を目指して

農村の若年人口減少の課題解 決を目指した観光教育の計画を サポートする事業を実施しまし た。青年団に所属する中高生が 地域の歴史文化を学び、大人 と一緒に観光ガイドグループを 結成しました。今後も活動を続 けたいという声が多く寄せられ、 子どもたちが地域の魅力を再発 見する機会となりました。

#### 日本とベトナムの学生の交流も

事業運営には山梨県立大学の 学生も参加しました。 ベトナム から青年団員の皆さんが県内に 研修に来た際には、甲府市内 の中学校や高校とベトナムの中 学校をオンラインで繋ぎ、国際 理解と協力の重要性を共に学 ぶ機会となりました。





果樹園での資源調査と動画制作

山梨県立大学の活動を もっと詳しく









山梨県富士山科学研究所の活動を もっと詳しく



インドネシア共和国

山梨県富士山科学研究所 (富士吉田市) 実施期間: 2022 年 7 月~ 2025 年 7 月 カウンターパート:ウダヤナ大学 プロジェクトマネージャー 吉本 充宏さん

#### 大学を拠点にした地域防災

地域に長く携わる大学を拠点 とした防災教育を通じて、地 域の防災能力を高める防災コ ミュニティの構築を目指してい ます。事業に関わる教員の意 識が変わり、科学的な基礎知 識を持って防災行動に繋げる 教育を自分たちもやってみたい という声が聞かれるようになり ました。

## 日本の地域防災への フィードバック

地域ごとの文化や人柄の違いを 改めて認識し、全国モデルを目 指すより地域に適したアプロー チが有効と考えています。富士 山周辺にも多様な文化があり、 住民の納得する防災活動が必 要です。地域に住みながら防災 に携わることで話を聞いてもら

えるのだと改めて感じています。

## 山梨そして世界で経験を分かち合う

## 中南米地域の日系社会の活性化を目指して

#### 日系社会連携事業

中南米地域の日系社会と日本の連携に主導的な役割を果たす方への研修を通じて、現地日系社会の活性化を目指しています。

## 文化の異なる地域にも 応用できる

環境教育指導の基礎を体験・ 実習で学ぶ研修を実施。参加者からは「研修内容や講師 の伝え方が現場で応用で る」などの声が寄せられています。自然を活かした環境な 育実践とその理論は、異なる言語・文化背景を持つ国々の環境教育現場やコミュニ ティー活動に有用性が高いと 強く感じています。

#### 世界を視野に、地域で実践する

多様な背景の参加者が相互 に刺激し合う関係性がうまれ、帰国後も参加者間の協 業が期待できます。私たち、 そして地域にとっても「世界を 視野に、地域で実践する」大 切さをあらためて感じる機会 となっています。



キープ協会 (北杜市) 環境教育事業部 事業部長 鳥屋尾健さん



B外での自然体験。五感を使って周囲の環境を感じます



体験の後のレクチャーは、お互いの意見を交えながら和気あいあいと

キープ協会の活動を もっと詳しく





山梨大学 (甲府市) 指導教員: 山梨大学国際流域環境研究センター(ICRE) 石平博さん 研修員: Naba Carine さん (ブルキナファソ出身)



富士川河川見学



JICA研修 山梨県内ワイナリー見学

山梨大学の活動を もっと詳しく



## 日本で総合的かつ高度な技術習得を目指す

#### 研修員受入事業

山梨大学ではこれまでに 14 名の JICA 長期研修員を受け入れ、国づくりの中核を担う方々を修士/博士課程で指導しています (2024 年 8 月現在)。

## 国・地域により異なる水問題 を身近に

ICREではこれまでに5名の JICA 長期研修員を受け入れています。私が指導する Naba さんは博士課程に在籍し、データ解析や数値モデリング技術を習得して研究の幅が広がりました。Naba さんを通じて日本人学生もアフリカの水問題やブルキナファソの現状を学

び、アフリカが身近に感じられるようになりました。

#### 安心して受入れのできる制度

JICA 長期研修員受入制度では、奨学金、教育研究、修学支援費などの経済支援が充実していることに加え、研修員向けのセミナーやイベントの企画など、安心して留学生を受け入れることができる環境が提供されていると感じています。

## オンリーワンの地雷除去機が 世界各国で農地復興・インフラ整備に活躍

#### 無償資金協力、他

1995年から開発に着手した対人地雷除去機は、世界各国で地雷除去・農地復興・ インフラ整備に活躍し、豊かな大地が人々の手に戻っています。

#### 豊かな大地への復興を目指して

20 年間の内戦で 500 万個以 上の地雷が埋められたカンボ ジアを豊かな大地に復興する ことを目指して、地雷除去機 を開発しました。機械の技術 支援では対等な立場で議論す ることを大切にしています。カ ンボジアでのプロジェクトで も、カンボジア地雷対策セン ター (CMAC) のスタッフの意

見を取り入れて機材を作り上 げました。CMAC のスタッフ も自分たちがこの地雷除去機 を作ったと感じていると思い ますし、それを非常に嬉しく 思っています。ウクライナ向け の地雷除去機も現地の技術 者の声を反映して製造しまし た。今後も国際社会と協力し て地雷被害の解決に向けた活 動を続けていきます。



株式会社日建 (南ァルプス市) 代表取締役計長 雨宮誠さん





地雷除去機の説明を受けるウクライナの技術者たち

株式会社日建の活動を もっと詳しく





アンチャリーポン・ パリサウォンさん (通称ビウさん) 出身:タイ王国 ソンクラー県 派遣期間: 2023 年 12 月~ 2024 年 12 月 记置先: 北杜市役所観光課



北杜市のカフェのスタッフに話を聞きます

## 好きな日本で好きな旅行の仕 事を

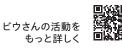
日本語の可愛さに惹かれて高校 と大学で学び、東京の語学学校 に1年半留学しました。卒業後 タイに戻りましたが、再び日本 に住みたいと思っていたときに FFTの募集を知り、北杜市で地

## 北杜市で活躍するタイ人観光コーディネーター

#### タイ政府の国際ボランティア事業 (FFT) を JICA もサポート

タイ政府の国際ボランティア事業「Friends From Thailand (FFT)」として、 2023年12月から北杜市でタイ人ボランティアが北杜市観光コーディネーター として活動しています。 JICA 横浜センターも受入の支援などを協働しています。

域の人々と触れ合い、仕事をす る中で日本の新たな一面を学び たいと思い応募しました。市役 所ではタイ向けの観光情報の発 信などを担当しています。取材で は難しい日本語が出てくることも ありますが、観光課の職員のみ なさんが言葉を教えてくれるので 安心して仕事ができます。





田澤ゆかさん 北杜市役所観光課 北杜市の魅力を -緒に発信

タイをターゲットにしたインバウン ド促進のため、現地の人と協力し て北杜市の魅力を発信できること に期待していました。ビウさんの 明るさと積極性が職場に新しい風 を吹かせ、ビウさんの意見を取り 入れ共に考えることで効率的な意 思決定が可能になりました。



#### 教材、お役立ち情報

子どもたちが世界の現状や課題、国際協力などについて知り、考え、 自分たちにできることを探すために役立つ開発教育・国際理解教育 のための教材などがご利用いただけます

開発教育・国際理解教育のためのJICA教材



外国につながる児童の教育に 携わるみなさまへのお役立ち情報 11か国の教育制度・学校文化ガイド集



#### JICA山梨デスク

JICA横浜センターは、山梨デスクとして地域の皆様からの質問や相談に応じる国際協力推進員を配置しています。

国際協力やJICAボランティア、開発途上国に関心を寄せる方々の身近なサポート役として、発信の担い手として広報活動や情報提供を行うとともに、JICAと自治体、地域のNGO等との連携を推進するためのパイプ役も果たしています。

お気軽にJICA山梨デスクにご相談ください。

〒400-0862 山梨県甲府市朝気1-2-2 山梨県立国際交流・多文化共生センター (公財)山梨県国際交流協会内 TEL: 055-228-5419

URL. https://www.iica.go.ip/domestic/vokohama/office/suishinin.html

#### 独立行政法人 国際協力機構 JICA横浜

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1 TEL: 045-663-3251(代表) URL. https://www.jica.go.jp/domestic/yokohama/index.html